

和歌山病院での実習を終えて



豊 未都樹

5月29日と30日の2日間いろいろお世話になりました。病院長として多くの仕事があるとは思いますが、そんな中私たちのために貴重な時間を割いていただきましたことをありがたく思います。特に実習1日目の夜にはご飯をごちそうになり、さらに医療に関する興味深い話から御坊にまつわる豆知識など楽しい時間を過ごせたことは言葉で表せないほど感謝の気持ちでいっぱいです。そんな充実した実習で感じたことをここに記したいと思います。

まず副院長さんのセミナーと結核病棟で感じたことについてです。副院長さんのセミナーは結核についてだったのですが大学で習うような結核の対処法や治療の仕方を口頭で説明するだけでなく、実際に現場で行われている外来患者に対する対処法や診断・治療などを私たちに考えさせながら話を進めていくスタイルのセミナーで、自分で考えることで今まで理解していたつもりになっていたことも十分理解していないことに気づき、改めて自分の勉強の仕方を見直す良い機会になりました。結核病棟では初めて N95 マスクをつけて初めて結核専門の施設に入りました。正直なところ実習に行くまでは結核の感染の可能性もあることから結核病棟に入ることにためらいがありましたが、実際は厳重な管理により結核が周りに感染しないような構造になっていて、さらに自分自身がきちんと感染対策をしていれば感染しないことに気づき、ためらっていたことを恥ずかしく思うような体験でした。

次に院長さんのセミナーについてです。わざわざ大学病院から結核専門の施設に行くのだから結核のセミナーだろうなと思っていたのですが、まさかの胸部レントゲンの読み方と気管気管支の発生の話ではじめは驚きました。ただ副院長さんのセミナーと同じく、院長さんのセミナーも私たちが主体で考えるセミナーでとても分かりやすかったです。何よりも胸部レントゲンの読影は将来どの科に入局したとしても必要な技術であり、苦手意識のある分野だったのでとても助かりました。今までは教科書に載っている胸部レントゲンの特徴を丸覚えだけして、その特徴がなければ診断がわからないと感じていたのですが、実習を終えてからポリクリでいろいろな画像を見たときに正常部分と異常部分がわかることに嬉しさを感じています。気管気管支の発生についても今までは単に左には S7 がないといった覚え方をしていましたが、あの体操を体にしみこませることで覚えなくてすむよ

うになり大分楽になりました。これら二つの基礎的なことを考えるだけで理解できるようになったことはこの実習のおかげだと感じています。

最後に実習で体験したかったことについて述べます。実習最終日にもお伝えしたとは思いますが外来での結核患者への対応を目の前で見たいと感じました。頭では理解していても実際に行うのは全く違うと思います。大学病院ではそんな体験はできないので、結核病棟がある和歌山病院でそういった体験がしたかったというのが正直な気持ちです。2週間のポリクリで2日間といった短い期間で、運よくその日に患者さんが来ないとそんな体験はできないので実現することは不可能だとはわかっていますが、感じたことではありますのでここに書かせていただきました。

最後に同じことを繰り返すようにはなりますが、院長さん、副院長さん、そしてこの実習に関係しましたスタッフの皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。